

山行報告 雁戸山と葉山(長井)

【日 時】 8/17 北蔵王連峰 雁戸山 8/18 朝日前衛 葉山

【参加者】 CL 大木・SL 柘植・澤田路・磯部(記録)

【天 候】 8/17 曇り時々雨のち晴れ 8/18 晴れ

【記 録】 8月17日(土)

東北道蔵王PA(仮眠)⇒笹谷IC⇒笹谷峠 7:15⇒山工高避難小屋⇒関沢分岐滑川コース分岐

→蟻の戸渡→10:15 雁戸山 10:45⇒(往路を戻り)笹谷峠 13:00⇒白鷹町森林公園キャンプ場

雁戸山の登山口笹谷峠は良く晴れていて、天童市が見渡すことができた。6月に蔵王の鳥兜山に登った時に真正面に緑濃く堂々とした山容の雁戸山が見えたのが大変印象的であったので、お誘いを受けたときは大変に嬉しかった。今度は逆の方向から鳥兜山を眺めることを期待して。



6月に鳥兜山から見た雁戸山と遠く月山

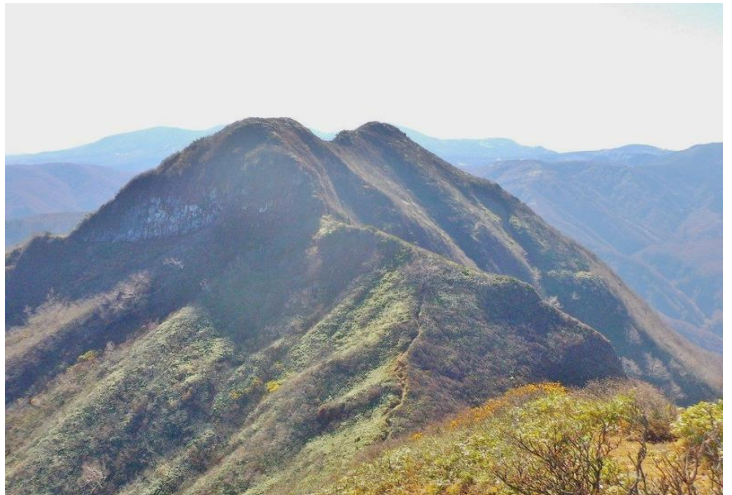


笹谷峠の雁戸山登山口

登り始めてしばらくは、樹林の中の単調な登りが続くが、山百合、車百合、撫子、ほととぎす、すすきの穂もすでに出ていて、秋を感じさせてくれる。沢の音を左手に聞きながら急登になってきた。すでに下山してきた若者たちに頂上のすばらしい眺望を伝えてくれたが、風が強いとのことであった。期待して登り下りを繰り返して行くと徐々に霧が出て小雨が降ってきた。分岐点に来ると地元の人らしい3人がこの先は風が強いので引き返してきたということだった。私たちも様子を見たが、弱まって来たようなので出発。蟻の戸渡は名前のイメージから来るほどでもなく、とは言え十分に注意して渡りその後は岩にしがみつくように登って行く。せっかく着いたのに頂上は霧の中、期待した鳥兜山は見えなかった。



霧雨の雁戸山の山頂



晴れていたら雁戸山はこんな山(NETからの借用写真)

帰路は雨で滑りやすい道を慎重に、細かい虫に悩まされながら下った。何ということか、峠に着く頃は晴れ上がり青空が広がった。泥で汚れたパンツと靴を恨みがましく見て白鷹町の森林公園キャンプ場に向かった。

8月18日(日)

森林公園キャンプ場⇒葉山白兔コース駐車場 6:45⇒葉山神社 9:55⇒奥の院(頂上)10:21⇒御田代湿原
→葉山神社 11:00⇒13:15 葉山白兔コース駐車場



葉山白兔コース駐車場



登山口の鳥居(NETからの借用写真)

本日大木さんは昨日の虫刺されによる体調不良のため、3人での登山である。
葉山白兔コース登山口は森林公園キャンプ場となっている。9月のお祭りのために、村の若者たち20人ぐらいが登山道(参道)の刈り払いをしながら登っているという。葉山は山自体がご神体の信仰の山である。入口の鳥居をくぐり、樹林帯の中を登り始める。雨はしばらく降っていないようで、乾いた歩きやすい道である。

当たり前だが刈り払いしながらの村の若者を抜いて、登って行く。だんだん晴れてきてかなり暑い、水分とミネラル補給に気を付けて登る。途中展望はあまり良くないが、振り返ると木の間から田園風景が見られる、実り豊かな田んぼの中に屋敷森が点在している。

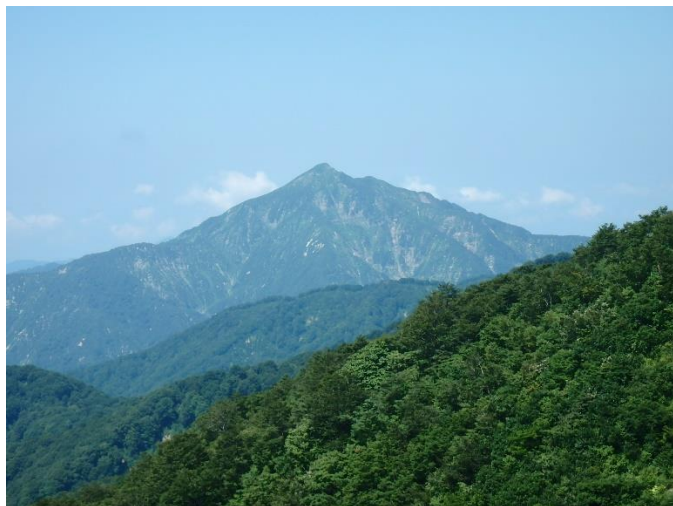
3時間で頂上に到着。祠が二つ並んでいるが、眺望はあまり良くない。休んでいると村の人たちが到着してリーダーらしき人が大朝日岳を木の間越しに見える場所を教えてくれ、また奥の院を教えてくれる。どうやらそこが真の山頂らしい。10分もせずに奥の院に到着すると信じられない位の絶景が広がった。朝日連峰の端、祝瓶山が形の良い山容を見せてくれる。これぞ登山の醍醐味とばかりに景色を存分に楽しんだ。神社に戻る途中、湿原を見つける。なかなか変化に富んだ山である。



山頂の葉山神社



奥の院から眺める柴倉山(中央)と祝瓶山(右端)



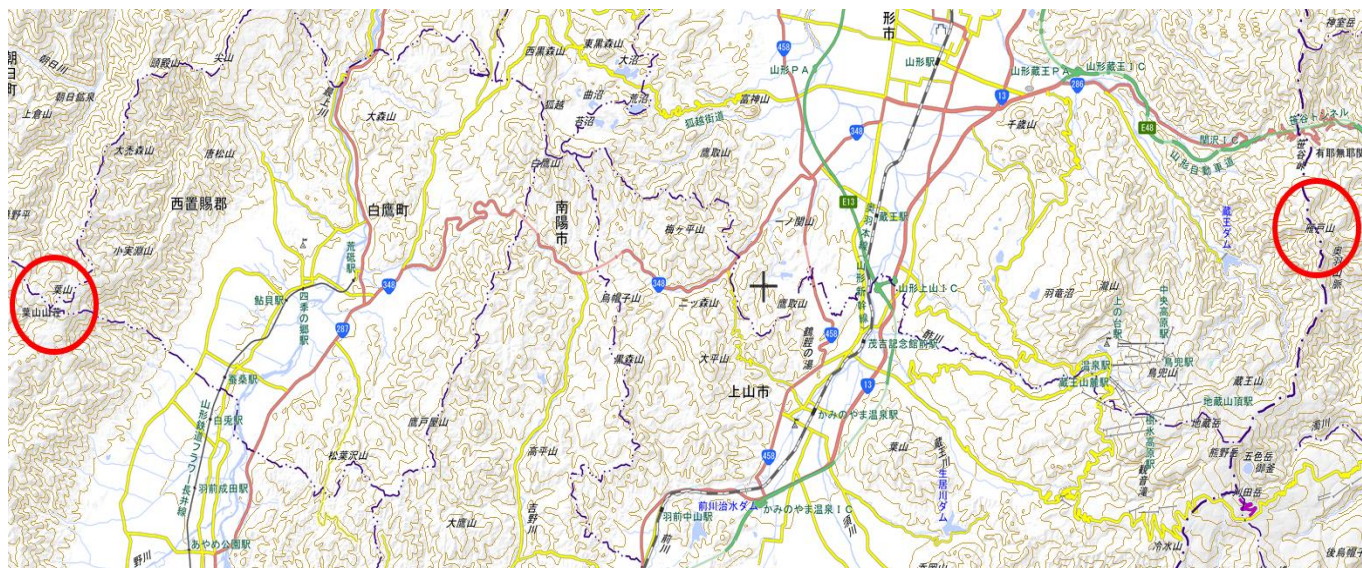
朝日連峰きっての鋭鋒 祝瓶山



山頂近くの御田代湿原

御田代湿原からの下山途中、村の人たちに教えてもらった水場に立ち寄る。美味しい、誠に美味、ほてった身体を冷やしてくれた。頂上から2時間ちょっとでキャンプ場に着く。この日、山形の気温は37度、森林公園キャンプ場でも冷たい水で頭を冷やし生き返った心地がした。

東北の山は、信仰と麓の人々とのつながりが強いことを改めて知り、偶然にも村の人たちと交流できたことが大きな収穫となった。ご一緒して頂いたみなさん、ありがとうございました。



右下が蔵王の中心部、右上が雁戸山 左上に朝日鉱泉、左中央が葉山(長井)

記録担当：磯部 菊子